

^{14}C 年 代 所 感

奈良国立文化財研究所 佐 原 真

9月11日の研究会の席上、 ^{14}C 年代にかんする芹沢長介氏の発表のあと、質疑の時間に、いささか異論をさしはさんだところ、ここに私見をまとめるようにうながされた。 ^{14}C 年代については、あらためて、欧州における実情の紹介をもふくめて本誌次号にまとめる予定なので、ここでは録音にしたがって当日の私の発言をほぼそのまま採録することにした。意にみたぬ点や撤回したい点も多い。しかし、ここでは若干の字句訂正にとどめ、次の機会に収拾することにした。録音は、沢田正昭、秋山隆保氏によるものである。両氏の御厚意に感謝する。

＊ ＊ ＊

「さきほどの、 ^{14}C を専門にやっておられる木越先生のお話をうかがいますと、ひじょうに控えめな、あぶないですよ、あぶないですよ、というようなお話でした。ただいまの芹沢さんのお話をうかがうと、まア大丈夫、ということでした、なにか、さかさな感じをうけました。

芹沢さんは今、 ^{14}C の成果を考古学の中では、むしろ否定する立場の方が多いのだ。芹沢さんのように、 ^{14}C の成果を使う人の方が少ないのだ、ということでもありますけれども、私はそうは思いません。現在、日本の考古学の第一線に立っている、ひじょうに多くの方が ^{14}C を重要視しておられます。いや充分にその成果を使っておいでになります。それらは、概説書、あるいはテレビ・新聞などをつうじて、現在、一般の人々に浸透しつつあります。旧石器時代以来、縄紋・弥生という年代が ^{14}C であたえられております。

私は ^{14}C を完全に否定するわけではありません。考古学でいくらががんばりましても、3000 B.C.からさかのぼりますと文字がなくなりますから、実年代にかんしては、自然科学にたよるざるをえない。それだけに、その成果をつかうときには慎重でありたい、ということを私はいいたいのであります。最近でた本には ^{14}C にしたがわないのは非科学的であるとまで書いてある。

芹沢先生のお話には、Clark先生がでてきました。Clark先生は、縄紋の ^{14}C 年代をみとめる根拠として、それがひじょうに間断なく続いていることをあげられているそうです。しかし、これは ^{14}C 年代が正しいことの証拠にはならない。むしろ、縄紋式土器の編年の研究——芹沢さんもそれを組み立ててきたお一人でありますけれども——が、ひじょうにうまくできてきた、その相対年代が正しい、ということをしめすにはほかならない、と私はみております。

現状では、 ^{14}C 年代を直ちにそのまま真の実年代としてはうけとれないことは確かです。御専門の方がそうおっしゃっているのですから間違いないことです。むしろ問題は、 ^{14}C 年代をつかう考古学者の方であります。ただちに真の実年代とはいえないが、 ^{14}C 年代ではこうなる、という具合に但し書をつけて使ってほしいものです。けれども、多くの考古学者が、 ^{14}C 年代すなわち実年代というふうにつかっていることは厳然たる事実であります。

イギリス、アメリカの概説書には、 ^{14}C 年代を実年代のようにそのままつかっているものもある。しかしヨーロッパでは日本よりは慎重です。Nobel Symposium においても、中欧では、 ^{14}C 年代と考古学による年代とが600～2500年くいちがうことが明らかにされています。そして、ヨーロッパでは、Calendar Year という言葉と ^{14}C Year とを正確に使われております。

芹沢先生のお話にありましたように、最近、中国で ^{14}C の成果が発表されました。はじめて日本で縄紋の年代が ^{14}C であたえられたところと同じ状況に、今、中国があるわけです。中国では、先史時代の実年代がなかなかおさえられないで、今までくるしんできたのですから、 ^{14}C にとびついた感じであります。しかし、これから中国でもおそらく慎重な意見がでてくると思います。

それから芹沢先生のお話には、タイ国の ^{14}C 年代ができました。これによると土器の年代が、8000 B.C.となる。それから、青銅器の年代が6000 B.C.となる。 ^{14}C 年代でこういう年代がでるのはかまわないんです。しかし、これをすぐそのまま真の実年代として採用するのには問題がある。中国の青銅器は、絶対にそこまではさかのぼらないわけですから、それとの矛盾をどう考えるかを説明することなしに、 ^{14}C だけで絶対確かとしてあつかっているのは、大変まちがっていると思います。その辺で一番象徴的だともうのは、九州大学の岡崎敬先生のお書きになったものです。そこでは、弥生式時代の前期の年代は ^{14}C でおさえ、考古学的資料は使っておられません。ところが中期の年代になりますと、漢の鏡とか輸入品で年代を推定し、ここには ^{14}C 年代は全然でてこない。こういう方法はおかしい。弥生式時代の前期・中期・後期は考古学資料からの推定年代ではこうなる。いっぽう ^{14}C 年代ではこうなる。ここが矛盾する。ここが一致する。こう使うのが考古学における ^{14}C 年代の正しい使い方だ、と私は思います。」